



業績目録(福地肇)

著者	東北大学史料館
号	1195
発行年	2012-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/62915

福地 肇教授業績目録

平成 24 年 3 月
東北大学史料館
(著作目録第 1195 号)



福地 肇 教授 業績 目 録

生年月日	昭和22年 8 月 2 日
本 籍 地	静岡県
職 名	教授
所 属	情報科学研究科人間社会情報科学専攻 人間情報学講座

学 歴

昭和45年 3 月	静岡大学人文学部人文学科卒業
昭和47年 3 月	東京教育大学大学院文学研究科英語学英文学専攻修士課程修了
昭和48年 4 月	東京教育大学大学院文学研究科英語学英文学専攻博士課程退学

職 歴

昭和48年 5 月	東京教育大学文学部助手
昭和50年 4 月	東北大学教養部講師
昭和53年 4 月	東北大学教養部助教授
平成 3 年 4 月	東北大学教養部教授 (平成 4 年 8 月～平成 5 年 6 月文部省在外研究員 (Harvard 大学))
平成 5 年 4 月	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻人間情報講座教授
平成24年 3 月	東北大学を定年退職

この間の併任・兼任

岩手大学人文社会学部，茨城大学教育学部，大阪大学文学部・大学院文学研究科，京都教育大学大学院教育学研究科，群馬県立女子大学文学部・大学院文学研究科，神戸大学文学部・大学院文学研究科，静岡大学人文学部，仙台白百合短期大学，筑波大学大学院英語教育学研究科，東北学院大学文学部・大学院文学研究科，東北大学文学部・大学院文学研究科，弘前大学人文学部・大学院人文社会科学研究科，宮城学院女子大学，宮城教育大学教育学部，山形大学教育学部，山形大学人文学部・大学院社会文化システム研究科

学位

平成4年11月 博士（文学）（大阪大学）

受賞

昭和60年11月 第19回 市河賞

学会等における活動

日本英語学会理事（平成17年12月～平成19年12月，平成22年12月～）
日本英語学会評議員（平成元年11月～ ）
日本英語学会大会準備委員会委員長（昭和62年11月～昭和63年11月）
日本英語学会春季国際フォーラム実行委員長（平成19年7月～平成20年5月）
日本言語学会委員（平成3年10月～平成20年3月）
東北英文学会評議員（平成5年4月～平成22年3月）

社会における活動

日本学術振興会審査委員（平成8年1月～平成11年1月）
宮城県高等学校英語研究会講師（平成12年4月～平成13年3月）
大学入試センター第一委員会委員（平成14年4月～平成15年3月）
国立7大学外国語教育協議会委員（平成平成16～17年度）

業 績 目 録

I. 著書・編著

単著

1. 『談話の構造』 福地肇，大修館書店，昭和60年 3 月
2. 『英語らしい表現と英文法－意味のゆがみをともなう統語構造』
福地肇，研究社出版，平成， 7 年10月

共著

1. 『英語変形文法』 今井邦彦，福地肇他，大修館書店，昭和60年 4 月
2. 『一歩すすんだ英文法』 今井邦彦，福地肇他，大修館書店，平成元年 5 月
3. 『英文法への誘い』 鈴木英一，福地肇他，開拓社，平成 7 年10月
4. 『言語研究入門－生成文法を学ぶ人のために』
大津由紀雄，福地肇他，研究社，平成14年 4 月
5. 『日本語の教科書』 畠山雄二，福地肇他，ベレ出版，平成21年 6 月

共同執筆

1. 『新英語学辞典』 中島文雄・大塚高信（編），福地肇他，
研究社，昭和57年11月
2. 『大修館英語学事典』 松浪有・今井邦彦・池上嘉彦（編），福地肇他，
大修館書店，昭和58年 5 月
3. 『チョムスキー小事典』 今井邦彦（編），福地肇他，
大修館書店，昭和61年 4 月
4. 『リーダーズ・プラス』 松田徳一郎（編），福地肇他，
研究社，平成 6 年 6 月
5. 『新版日本語教育事典』 水谷修他（編），福地肇他，
大修館書店，平成17年10月

Ⅱ. 調査報告書（編著）

1. 『節の配列形態に視点を置く日英語対照分析と英作文教育の質の向上への貢献』,
福地肇他, 東北大学, 平成20年 4 月

Ⅲ. 研究論文（単著）

1. 「縮約と方向性」福地肇, *The Quiet Hill* 5, 25-30, 昭和47年 3 月
2. “A Note on Adverbial Coordination,” Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics* 1, 81-86, 昭和47年 9 月
3. “Directionality in Reduction,” Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics* 2, 18-27, 昭和48年 9 月
4. 「存在文の派生」福地肇, 『東京教育大学文学部紀要西洋文学研究』92号, 7-20, 昭和49年 3 月
5. 「存在文に関する一考察」福地肇, 『山本博教授退官記念論文集』, 66-76, 昭和49年 9 月
6. “Quasi-Conjunction Reduction,” Hajime Fukuchi, *Studies in English Literature*, English Number 1975, 61-78, 昭和50年 3 月
7. 「いわゆる叙述同格語について」福地肇, 『アレオパガス』4 号, 44-51, 昭和50年 6 月
8. “Adverbial Expressions in Coordinate Structures,” Hajime Fukuchi, 『東北大学教養部紀要』24号, 168-178, 昭和51年 2 月
9. “Quasi-Complements and Active-Passive Relations,” Hajime Fukuchi, *Studies in English Literature*, English Number 1976, 105-127, 昭和51年3月
10. “Remarks on the Adverbials Generated in Coordinate Structure,” Hajime Fukuchi, *Papers in Linguistics* 8.1, 177-198, 昭和51年 6 月
11. “Complex NP Shift and Trace Theory,” Hajime Fukuchi, *Studies in English Literature*, English Number 1977, 95-118, 昭和52年 3 月

12. "A Thematic Constraint on Complex NP Shift and Functional Implications," Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics* 5, 1-14, 昭和52年 6 月
13. 「下接の条件と意味的規則性」 福地肇, 『東北大学教養部紀要』30号, 53-78, 昭和53年 2 月
14. "The Applicability of Complement Extraposition and Functional Implications," Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics* 6, 32-50, 昭和53年 7 月
15. "The X' Constraint," Hajime Fukuchi, *Descriptive and Applied Linguistics* 12, 197-200, 昭和54年 5 月
16. "Constraining Extraction Transformations in X-Bar Theory," Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics* 7, 1-29, 昭和54年 7 月
17. "In Defense of Passive Transformation," Hajime Fukuchi, 『東北大学教養部紀要』32号, 112-128, 昭和54年12月
18. 「移動の制限と関係節形成の史的変化－初期近代英語を中心に」 福地肇, 『東北大学教養部紀要』36号, 197-218, 昭和56年12月
19. 「副詞表現の並列と等位接続」 福地肇, 『長谷川松治教授古希記念論文集』, 135-48, 昭和56年12月
20. "Restructuring and a Concept of Syntactic Transformations," Hajime Fukuchi, 『言語研究』82号, 65-90, 昭和57年11月
21. 「英語変形文法－形式的表記法について」 福地肇, 『言語』11巻12号, 85-100, 昭和57年11月
22. "A Constraint on the Movement in Stylistically Marked Constructions," Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics* 10, 96-139, 昭和57年12月
23. 「語順における談話の原則」 福地肇, 『言語』12巻12号, 48-57, 昭和58年11月
24. 「統率と that-trace の諸問題」 福地肇, 『東北大学教養部紀要』40号, 96-121, 昭和58年12月
25. "Government and Indexing," Hajime Fukuchi, *Theoretical Linguistic Research* 1, 1-16, 昭和59年 5 月
26. 「GB 理論への道」 福地肇, 『言語』13巻11号, 48-57, 昭和59年10月

27. 「統率の方向性と ECP」 福地肇, 『言語研究』86号, 139-160, 昭和59年12月
28. 「語法研究: 接続表現としての前置詞」 福地肇, 『英語青年』131巻2号, 昭和60年4月
29. 「Said John: "The newspaper is late again"」 福地肇, 『英語教育』34巻2号 (大修館書店), 63-65, 昭和60年4月
30. 「主要部・修飾部交替に関する一考察」 福地肇, 『東北大学教養部紀要』44号, 195-209, 昭和60年12月
31. 「生成文法における意味論と論理形式」 福地肇, 『言語』15巻2号, 44-48, 昭和61年1月
32. 「名詞句の派生的意味」 福地肇, 『英語教育』35巻1号, 66-68, 昭和61年3月
33. 「同語反復を含む複文と談話」 福地肇, 『東北大学教養部紀要』46号, 186-98, 昭和61年12月
34. "Movements and the Principle of Theta Projection," Hajime Fukuchi, 『言語研究』91, 15-39, 昭和62年5月
35. 「動的文法理論の提案するもの」 福地肇, 『言語』16巻11号, 46-53, 昭和62年10月
36. "A Localization of Restrictive Relative Clauses," Hajime Fukuchi, *English Linguistics* 4, 331-335, 昭和62年11月
37. 「伝達機能からみた belief-context」 福地肇, 『英文学研究』64巻2号, 265-280, 昭和63年3月
38. 「潜伏疑問と名詞句主要部の意味」 福地肇, 『英語青年』134巻1号 (研究社出版), 31, 昭和63年3月
39. 「機能文法の力とそのねらい」 福地肇, 『言語』17巻10号, 36-44, 昭和63年9月
40. 「創造的学習につながる応用言語学」 福地肇, 『英語教育』38巻12号, 20-21, 平成2年1月
41. 「談話からみた文末修飾節」 福地肇, 『生成文法の方位』(松柏社), 296-325, 平成2年4月

42. 「言語分析における機能的視点－形式主義と機能主義」 福地肇, 『言語』20巻4号, 44-49, 平成3年3月
43. “Syntactic Localization Phenomena in English,” Hajime Fukuchi, *Current English Linguistics in Japan* (Mouton de Gruyter), 45-76, 平成3年7月
44. 「関係節構造における主要部の統語的・意味的不一致」 福地肇, 『現代英語学の諸相』(開拓社), 221-231, 平成3年7月
45. 「意味の犠牲をとまう関係詞化」 福地肇, 『英語青年』137巻12号, 618, 平成4年2月
46. 「意味的に“Analytic”な複文構造」 福地肇, 『村松真一教授退官記念論文集』, 125-132, 平成4年12月
47. “Implicative When-Clauses,” Hajime Fukuchi, *Synchronic and Diachronic Approaches to Language* (Liber Press), 345-350, 平成6年2月
48. 「構文と概念構造」 福地肇, 『小沢康彦教授退官記念論文集』, 187-206, 平成8年12月
49. “NP-internal *if*-Clauses and Their Hidden Targets,” Hajime Fukuchi, *Studies in English Linguistics: A Festschrift for Akira Ota*, (Taishukan), 301-316, 平成9年7月
50. 「複合概念形成のひとつの型」 福地肇, 『英語青年』145巻6号, 381, 平成11年8月
51. “Two Types of Unlocalizable Relativizer in English Restrictive Relative Constructions,” Hajime Fukuchi, *Interdisciplinary Information Sciences* 6.1, 23-39, 平成12年7月
52. 「情報量のない主節に続く関係詞節」 福地肇, 『英語青年』147巻5号, 290-291, 平成13年6月
53. 「『軽』関係節」 福地肇, 『市河賞36年の軌跡』(開拓社), 128-135, 平成15年5月
54. 「主節・従属節構造の英文解釈」 福地肇, 『英語青年』149巻4号, 204-206, 平成15年7月

55. “When a copular sentence is followed by a uninformative relative clause: A Thematization through Clause Superposing,” Hajime Fukuchi, *Theoretical and Empirical Approaches to Language: A Festschrift for Masaru Kajita*, (Kaitakusha), 138-146, 平成15年12月
56. “Adverbial Localization Phenomena,” Hajime Fukuchi, 『ことばの絆』(開拓社) 284-297, 平成18年 9 月
57. 「英語学から見た英作文」 福地肇, 『英語青年』153. 7, 396-398, 平成19年 9 月

IV. 書評

1. R. Stockwell, et al., *Major Syntactic Structures in English* (Holt, Rinehart & Winston, 1973), 福地肇, 『英語教育』2 巻 8 号, 90-91, 昭和48年 9 月
2. G. Green, *Semantics and Syntactic Regularity* (Indiana University Press, 1974), 福地肇, 『英文学研究』52巻 1 号, 177-180, 昭和50年11月
3. 中島平三『英語の移動現象研究』(研究社出版, 1984), 福地肇, 『英語青年』130巻 6 号, 40, 昭和59年 6 月
4. 荒木一雄 (編)『英語正誤事典』(研究社出版, 1986), 福地肇, 『英語青年』132 巻 9 号, 41, 昭和61年11月
5. S. Kuno, *Functional Syntax: Anaphora, Discourse and Empathy* (The University of Chicago Press, 1987), 福地肇, 『言語』16巻 9 号, 86-89, 昭和62年 7 月
6. M. スタブス (南出・内田訳)『談話分析』(研究社出版, 1990), 福地肇, 『英語教育』39巻3号, 95-96, 平成 2 年 5 月
7. 武田修一『意味論の諸相』(リーベル出版, 1998), 福地肇, 『現代英語教育』1998年 7 月号, 58, 平成10年 6 月
8. 町田健『生成文法がわかる本』(研究社出版, 1999), 福地肇, 『英語教育』49 巻 2 号, 89-90, 平成12年 4 月
9. 岡田伸夫『英語教育と英文法の接点』(美誠社, 2001), 福地肇, 『英語教育』50. 2, 88-89, 平成13年 1 月
10. 高見健一・久野暁『日英語の自動詞構文』(研究社, 2002), 福地肇, 『英語青年』148.3, 平成14年 4 月

11. 瀬田幸人他『入門ことばの世界』(大修館書店, 2010), 福地肇, 『英語教育』59.12, 平成23年2月

V. 解説その他

1. (解説)「痕跡理論について」福地肇, 『言語』11巻2号, 昭和57年1月
2. (英語テキスト共注釈) Constance Matthews, *Words, Words, Words* (金星堂), 小田基, 福地肇, 昭和59年3月
3. (学会報告)「日本英語学会機関誌 *English Linguistics* の創刊」福地肇, 『言語』14巻3号, 昭和60年2月
4. (研究エッセイ)「不公平の言語学」福地肇, 『言語』14巻8号, 昭和60年7月
5. (研究報告)「複文構造と時の叙述」福地肇, 『総合研究：文化における時間意識の研究』(東北大学教養部), 平成2年3月
6. (研究エッセイ)「ある「あいまいさ」を考える」福地肇, 『言語学出版社フォーラム』平成19年11月
7. (学会報告) Short Report from the First International Spring Forum, Hajime Fukuchi, *English Linguistics*, 25. 2, 平成20年12月
8. (研究エッセイ) On a Certain Dichotomy, Hajime Fukuchi, *Ergon* (University of Malaya), 4.2, 4-6 平成23年10月